

自分がなにじんでも

中二

「あなたつてなにじん？」

そう聞かれたことが何回かあります。私は父がスウェーデン人、母が日本人のハーフです。私のように両親の国籍が異なる子供は、日本ではハーフと呼ばれたりしますが、場合によつてはミック

ス、ダブルと呼ばれることもあります。それは、

ハーフ＝半分で未熟だつたり、足りない印象があつたりするからだそうです。私の学校にもいろいろな国の人々や外国人の生徒が何人もいて、みんな同じように学び、活動しています。私はハーフとされることに抵抗がなく、嫌な思いもしたことはありません。そんな私は、日本とスウェーデンの国籍をもつていて、二十歳までにどちらか一方の国籍を選ぶことになります。どちらの国籍を選んで生きていくとしても、自分の将来に暗いイメージはありません。でもそれは、人によるのかもしれないと思うございました。

自分についてぼんやり考えていた頃、日本に住

む外国人についての記事をインターネットで読みました。残念ながら、事件や事故のニュースでした。日本に住む特定の国籍や人種の人が悪く言われだしていると感じていましたが、そのような事件や事故が続くと、同じ日本人同士の事件や事故よりも「その国やその国籍の人が悪い。」というような印象が残りやすいなとも思いました。そしてよいニュースよりも悪いニュースのほうが広まりやすいとも思います。

日本には、外国人が多く住む地域があちこちにあります。今までその地域に住む日本人とよい関係を築いてきたはずなのに、いくつかの事故やトラブルのせいで、多くのよい外国人よりも、そこではない人の印象が強くなっています。そこには住む人たちに対する気持ちが冷たくなり、その人たちが今までできていたことや付き合つてきた人たちは今までできていたことや付き合つてきた人たちから日本人が離れていくとも聞きます。日本で店を開いたり、働いたりしていった人たちに 対して、私たちが都合よく視野を狭くして、誰かの権利を奪つていて可能性があります。その国の人々の子だからという理由でいじめられているとも聞きました。

世界のいくつかの国や地域では、長く戦争が続いているのですが、ある国の父親をもつ友達がとても気まずそうにしていましたことがあります。戦争はゲームではありません。どちらかを応援するものではなく、争いが解決することを願うのですが、その頃はメディアやイメージ、国の規模の問題で友達の親の国が悪く言われることが多く、遠く離れた日本に住む、全く関係のない友達まで間接的に国同士の争いに巻きこまれた形になりました。もし、その友達の近くに、争いの敵になつている国の人いたら、その友達はもつと苦しい状況になつていていたかもしれません。国同士の争いも、場所が変わると個人を傷つけることになると、そのとき感じました。それが個人対大勢だつたら、その人の人生を変えてしまうかもしれません。大多数の意見やイメージに流されて、普通に暮らす人の権利を奪う例のひとつだと思います。

新しい病気が世界に広まつたときも、特定の国が叩かれたり、悪く言われたりする時期がありました。それはその国籍を持つ人たちのせいではなく、私たちと同じように体調を崩したり、亡くなつたりした人も多くいました。その国全てが

悪いように言われて、居心地の悪い時間を何年も過ごした人が日本にも多くいたはずです。その国の出身の人たちが今までどおり、日本でうまく暮らしていく権利が奪われた時期だと思います。

日本は島国なので、陸が繋がつて他の国がありません。日本にいるのは日本人とそれ以外という考え方がどうしても強い気がします。その分、受け入れる心や視野を広くもつことのハードルが少し高い気もします。「いろいろな人たちがいる」国になつてきているのに、気持ちがついていくつていよいよにも思えます。その人個人を尊重するべきときでも、たくさん意見に流されて、だれかの権利や安定を無意識で奪つていて、気付かない人がどうしてもいます。

先に書いたように、私がもつ二つの国籍について、不満や辛い経験はありませんが、それはたまたま今まで何もなかつたからだと気付きました。もし、日本人に偏見のある国に私が住んでいたら、気持ちに反して私は日本国籍を選ばないかもしれません。同じように日本に住む日本人以外の人たちが、自分の国籍をごまかしたり、隠したりしたくなるようなことがあつてはならないと思います。

何も悪いことをしていないう人たちが、国籍や出身を知られることで避けられたり、断られたり、軽く見られたりするような権利の奪われ方をしない国であるべきです。外見や文化の違い、考え方や価値観を理解し近づき合って、差別や偏見という国境がない日本になつていけばいいと思います。